

第2期朝来市創生総合戦略事業評価指標(KPI)達成状況

基本目標1 自分らしく生き生きと活躍する「ひと」づくり

◆ASAGOiNGな人を育む

◎市民一人一人が自分らしく生き生きと活躍しながら「まち」とつながるASAGOiNGな人づくり

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
朝来市が好きだと思う生徒の割合(中学3年生アンケート調査)	87.0% (R1アンケート調査)	89.0% (R3年5月調査)	80.6% (R4年5月調査)	84.9% (R5年5月調査)	76.6% (R6年5月調査)	アミューズメントパークやショッピングセンターがないなど、「ないもの」に対し不満を感じている生徒が多いが、地域行事に参加している生徒の割合が増加していることから、「あるもの」の良さを実感できる教育の推進に課題があったからと推測される。	90.0%	学校教育課
住んでいる地域に愛着や誇りを持つ市民の割合(市民アンケート調査)	62.8% (R1アンケート調査)	63.8% (R3年5月調査)	70.0% (R4年5月調査)	66.6% (R5年5月調査)	65.9% (R6年5月調査)	—	65.8%	総合政策課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
学校運営協議会を導入し、地域と連携した学校・地域の課題解決や活動した学校の割合	小学校 22.2% 中学校 0%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	小学校100% 中学校100%	—	小学校100.0% 中学校100.0%	学校教育課
「地域行事に参加した」児童生徒の割合	小学校 65.7% 中学校 33.9%	—	小学校78.4% 中学校70.2% (R3)	小学校75.9% 中学校64.3% (R4)	小学校80.9% 中学校58.7% (R5)	—	小学校75.0% 中学校55.0%	学校教育課
区の地域活動に参加した市民の割合(市民アンケート調査)	69.7% (R1アンケート調査)	52.6% (R3年5月調査)	45.1% (R4年5月調査)	53.5% (R5年5月調査)	55.7% (R6年5月調査)	コロナ禍において、地域活動に参加できる環境を整えることができなかった。	66.1%	市民協働課

◎市民一人一人が好きなこと・得意なことなどを地域社会で発揮し多様な活動を促進するひとづくり

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合（市民アンケート調査）	28.7% (R1アンケート調査)	25.8% (R3年5月調査)	25.0% (R4年5月調査)	26.2% (R5年5月調査)	26.2% (R6年5月調査)	コロナ禍において、自らの知識や経験を地域社会活動に活かせる環境を整えることができなかった。	27.8%	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
地域づくりの学びの場開催回数	5回/年 (R1年度)	6回/年 (R2)	5回/年 (R3)	6回/年 (R4)	6回/年 (R5)	—	5回/年	市民協働課
地域自治協議会の参画人数	1,671人 (H30年度)	1,698人 (R2)	1,385人 (R3)	1,332人 (R4)	1,226人 (R5)	コロナ禍において、地域自治協議会活動に参画できる環境を整えることができなかった。	1,870人	市民協働課

◆ASAGOiNGな仲間づくり

◎移住・定住の促進や関係人口の創出・拡大によるASAGOiNGな仲間づくり

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
朝来市に住みたいと思う市民の割合（市民アンケート調査）	65.4% (R1アンケート調査)	68.7% (R3年5月調査)	67.6% (R4年5月調査)	64.4% (R5年5月調査)	65.0% (R6年5月調査)	朝来市に住みたいと思う市民の割合は、住んでいる地域に愛着や誇りを持つ市民の割合と相関関係を持っているが、新たな取組が少なく、多様な市民ニーズに対応した多様な学びの場づくりが不足していると考えられる。	70.0%	総合政策課
朝来市の移住支援制度を利用して転入した人数	566人 (H26～H30年度)	838人 (R26～H2)	927人 (R26～H3)	1,032人 (H26～R4)	1,149人 (H26～R5)	(達成見込)	1,360人（累計） (H26～R7年度)	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
移住相談件数（過去5年間の平均値）	194件/年 (H26～H30年度平均)	312件/年 (H28～R2平均)	393件/年 (H29～R3平均)	487件/年 (H30～R4平均)	575件/年 (H31～R5平均)	—	200件/年 (R3～R7年度平均)	市民協働課
体験・移住交流プログラム件数	5件/年 (H30年度)	4件/年 (R2)	4件/年 (R3)	9件/年 (R3)	9件/年 (R5)	—	6件/年	市民協働課

◎結婚を希望する人の出会いの機会の創出

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
婚姻数（兵庫県人口動態調査）	151組/年 (H30年度)	110組/年 (R1)	92組/年 (R2)	85組/年 (R3)			150組/年	市民協働課
婚姻数（過去4年間の平均値）（兵庫県人口動態調査）	134組/年 (H28～R1平均)	120組/年 (H29～R2平均)	109組/年 (H30～R3平均)	92組/年 (R1～R4平均)		コロナ禍による出会いの場の喪失及び婚姻に対する価値観の変化により、全国的に婚姻数が減少している。	135組/年 (R3～R6平均)	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
婚活イベントの開催回数	6回/年 (R1年度)	7回/年 (R2)	4回/年 (R3)	9回/年 (R4)	9回/年 (R5)	—	7回/年	市民協働課

◎移住者や在住外国人などの地域の受入れ体制の充実

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
居住年数10年未満の市民で朝来市が住みやすいと思っている市民の割合（市民アンケート調査）	62.8% (R1アンケート調査)	60.5% (R3年5月調査)	65.9% (R4年5月調査)	59.9% (R5年5月調査)	59.5% (R6年5月調査)	移住年数が短いほど割合が低く、コロナ禍の最中に移住した方は、早い段階から相談等のできるような、地域との安心できる繋がりが作りにくかったためと思われる。	70.0%	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
移住者交流会実施回数	2回/年 (H30年度)	1回/年 (R2)	0回/年 (R3)	0回/年 (R4)	1回 (R5)	R2年度までは、一般社団法人朝来まちづくり機構に委託（移住定住業務の一環）し本交流会を開催していた。R5年度に市が主体となり実施したところ、約40人の参加があり有意義な交流会となったが、参加者からは、毎年開催するのではなく、数年に一度の開催を希望する声もあった。R6、R7年度も市が主体となり開催を検討しているが、目標値の達成は難しい。	3回/年	市民協働課
居住年数10年未満の市民で区の活動に参加した市民の割合（市民アンケート調査）	50.0% (R1アンケート調査)	44.4% (R3年5月調査)	36.6% (R4年5月調査)	47.6% (R5年5月調査)	47.7% (R6年5月調査)	コロナ禍において、市民活動に参加できる環境を整えることができなかった。	56.0%	市民協働課

◆一人一人の行動につなげる情報発信

◎一人一人の行動につなげる情報発信の充実

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
家族や友だちに朝来市への移住を勧めたいと思う市民の割合(市民アンケート調査)	37.9% (R1アンケート調査)	37.1% (R3年5月調査)	36.8% (R4年5月調査)	33.8% (R5年5月調査)	30.1% (R6年5月調査)	家族や友達に朝来市への移住を勧めたいと思う市民の割合は、市民主体的な活動等と相関関係を持っているが、新たな活動を促進するための情報発信や場づくりが不足していると考えられる。	46.5%	総合政策課
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合(市民アンケート調査) [再掲]	28.7% (R1アンケート調査)	25.8% (R3年5月調査)	25.0% (R4年5月調査)	26.2% (R5年5月調査)	26.2% (R6年5月調査)	コロナ禍において、自らの知識や経験を地域社会活動に活かせる環境を整えることができなかった。	27.8%	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
市SNSアカウントによる発信回数	325回/年 (H30年度)	346回/年 266回/年 (R2)	773回/年 513回/年 (R3)	534回/年 353回/年 (R4)	623回/年 (R5)	—	580回/年	総合政策課
情報発信に係る講座開催回数	0回/年 (H30年度)	1回/年 (R2)	1回/年 (R3)	3回/年 (R4)	6回/年 (R5)	—	2回/年	市民協働課

基本目標2 魅力ある多様な「しごと」づくり

◆内発的な経済成長

◎市内企業で働く人材の確保

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
市内事業所への新卒就業者数 (抽出：就活サポートブック掲載企業のうち製造業、建設業、福祉事業31社)	56人/年 (H29年度)	59人/年 (R2)	55人/年 (R3)	59人/年 (R4)	50人/年 (R5)	特に若年層の人口減少と特に都市部での売り手市場が続く中、市内事業所の新卒就業者数は減少した。	60人/年	経済振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
ジョブサポあさご求職相談件数	15人/年 (H30年度)	15人/年 (R2)	8人/年 (R3)	7人/年 (R4)	4人/年 (R5)	移住希望の方からの相談が減少、全体の相談件数も減少傾向にある。	17人/年	経済振興課
合同企業説明会参加者数	109人/年 (H30年度)	167人/年 (R2)	119人/年 (R3)	44人/年 (R4)	52人/年 (R5)	若年層の人口減少と、都市部企業の売り手市場が続く中、但馬内での就職を希望する学生は減少傾向にある。	110人/年	経済振興課
大学生・高校生・中学生等の仕事体験受入事業数（しごとゼミ、トライやるウィーク等）	126事業所/年 (R1年度)	100事業所/年 (R2)	107事業所/年 (R3)	103事業所/年 (R4)	139事業所/年 (R5)	—	130事業所/年	経済振興課

◎市内企業等の稼ぐ力の向上

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
創業件数	11件/年 (H30年度)	3件/年 (R2)	7件/年 (R3)	7件/年 (R4)	5件/年 (R5)	コロナ禍の影響もあり創業者数は減少しているものの概ね横ばいとなっている。	72件（累計） (R2～R7年度)	経済振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
あさご元気産業創生センター相談件数	51件/年 (H30年度)	131件/年 (R2)	128件/年 (R3)	133件/年 (R4)	138件/年 (R5)	—	60件/年	経済振興課
起業セミナー（創業塾）参加者数	28人/年 (R1年度)	18人/年 (R2)	13人/年 (R3)	24人/年 (R4)	18人/年 (R5)	目標値には若干届いていないものの参加者数は概ね横ばいで推移している。	20人/年	経済振興課

◎誰もが安心して希望に応じたやりがいのある働き方の実現

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
朝来市内女性就業者比率 (国勢調査) (女性の生産年齢人口の就 業者数/女性の生産年齢人 口)	68.8% (H27国勢調査)	-	74.2% (R2国勢調査)	-	-	—	70.8% (R7国勢調査)	経済振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
多様な働き方を推進するた めの事業所向けセミナー開 催回数	1回/年 (R1年度)	1回/年 (R2)	2回/年 (R3)	2回/年 (R4)	1回/年 (R5)	—	1回/年	経済振興課
働き方改革や多様な働き方 を推進するセミナー参加事 業所数	10事業所/年 (R1年度)	8事業所/年 (R2)	23事業所/年 (R3)	21事業所/年 (R4)	8事業所/年 (R5)	令和5年度は、短時間、少日数で勤務する ことができる事業所と働きたい女性のため のマッチングイベント「お仕事大相談会」 にあわせてセミナーを実施した。セミナー 回数の減少に伴い参加事業者数が減少し た。	12事業所/年	経済振興課
放課後児童クラブ・放課後 子ども教室設置数	11施設 (R1年度)	11施設 (R2)	12施設 (R3)	12施設 (R4)	12施設 (R5)	—	12施設	学校教育課
病児保育設置箇所数(病児 対応型・病後児対応型)	2施設 (R1年度)	2施設 (R2)	1施設 (R3)	2施設 (R4)	2施設 (R5)	病児対応は、クリニックよしだで開設。 病後児対応は、枚田みのり保育園で開設し ている。その他の施設では、看護師確保の 関係から半年の開設となり、年間を通じて の設置に到っていない。	3施設	こども園課

◆交流人口拡大による経済循環活動の促進
◎朝来市の強みを生かした観光誘客の推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
観光入込客数（観光動態調査）	2,278千人/年 (H30年度)	1,451千人/年 (R2)	1,492千人/年 (R3)	1,881千人/年 (R4)	1,897千人/年 (R5)	コロナ禍中の激減から回復傾向にはあるものの、物価高等の影響により全国的にも国内旅行者数が伸び悩んでいるため。	2,387千人/年	観光交流課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
体験型観光プログラム数	30件 (R1年度)	31件 (R2)	31件 (R3)	31件 (R4)	33件 (R5)	コロナ禍においては新たなプログラムの開発も停滞しており、年度計画より遅れているため。	44件	観光交流課
朝来市観光ポータルサイト 閲覧ユーザー数	176,665ユーザー/年 (H30年度)	282,149ユーザー/ 年 (R2)	215,230ユーザー/ 年 (R3)	252,322ユーザー/ 年 (R4)	252,178ユーザー/ 年 (R5)	閲覧数の管理をGoogleアナリティクスを活用して行っているが、R5年度途中で仕様が 変わり、計上方法が変更となったため減少。	261,000ユーザー/ 年	観光交流課
各種メディアでの情報発信 回数	229回/年 (H30年度)	296回/年 (R2)	288回/年 (R3)	303回/年 (R4)	416回/年 (R5)	—	290回/年	観光交流課

◎観光客一人当たりの観光消費額の拡大

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
一人当たりの観光消費額	3,527円 (R1年度)	4,368円 (R2)					3,836円	観光交流課
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊あり)	14,117円 (H29年度)		17,705円 (R3)	16,900円 (R4)	21,026円 (R5)	—	16,728円	観光交流課
一人当たりの観光消費額 (市内宿泊なし)	2,590円 (H29年度)		2,345円 (R3)	4,850円 (R4)	4,385円 (R5)	—	2,834円	観光交流課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
延べ宿泊者数	112,770人/年 (H30年度)	58,455人/年 (R2)	75,432人/年 (R3)	104,871人/年 (R4)	123,649人/年 (R5)	(達成見込)	135,500人/年	観光交流課
観光ガイド登録者数	53人 (H30年度)	51人 (R2)	49人 (R3)	48人 (R4)	49人 (R5)	(達成見込)	60人	観光交流課

◎インバウンド観光の推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
インバウンド来訪客数	10千人/年 (H30年度)	0.6千人/年 (R2)	0.4千人/年 (R3)	1.5千人/年 (R4)	6.5千人/年 (R5)	コロナ禍中において移動制限が実施され、 激減したインバウンドも回復傾向にはある ものの、計画通りに伸びていないため。	25千人/年	観光交流課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
朝来市多言語サイト「Visit Asago」の閲覧ユーザー数	2,651ユーザー (R1年11月)	8,370ユーザー/年 (R2)	6,846ユーザー/年 (R3)	8,068ユーザー/年 (R4)	6,973ユーザー/年 (R5)	閲覧数の管理をGoogleアナリティクスを活用して行っているが、R5年度途中で仕様が 変わり、計上方法が変更となったため大幅 に減少。 ※R6年度以降は所属する広域観光連盟で多言語 サイトに取り組む。当サイトはR5年度で廃止。	10,000ユーザー	観光交流課

◆儲ける農林畜産業への転換

◎農林畜産業の担い手の確保・育成

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
認定農業者数	29人 (R1年度)	32人 (R2)	34人 (R3)	35人 (R4)	36人 (R5)	認定農業者を取得する前段階として認定新規就農者を取得する傾向がある。 認定新規就農者には、国の支援制度を受けられるため、大半の新規就農者はこちらを選択している。	47人	農林振興課
市研修制度を活用した新規就農者数	18人 (H28～R1年度)	20人 (H28～R2)	25人 (H28～R3)	28人 (H28～R4)	31人 (H28～R5)	3年間の研修期間を経るため、年間2～3人の研修修了者を輩出している。	50人(累計) (H28～R7年度)	農林振興課
新たに農業に携わる女性の数	—	14人	17人	18人	18人	単身女性の就農者(就農希望者)がなかなかいないのが現状。	120人(累計) (R2～R7年度)	農林振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
就業希望者向けイベント出展回数	8回/年 (R1年度)	3回/年 (R2)	1回/年 (R3)	0回/年 (R4)	3回/年 (R5)	就業希望者向けイベントの認知度が上がったことにより全国からの出展参加団体(自治体)が増え、キャンセル待ちなど出展機会の減少と出展料の高騰。	13回/年	農林振興課
小・中学校での農林畜産業体験回数(1校あたり年間実施回数)	0.92回/校・年 (R1年度)	0.92回/校・年 (R2)	0.92回/校・年 (R3)	0.92回/校・年 (R4)	0.92回/校・年 (R5)	自然学校(小学5年)の中で農林畜産業の体験学習を行うため、他学年での体験学習の機会が減少。	2回/校・年	農林振興課
農業経営セミナー開催数	0回/年 (R1年度)	2回/年 (R2)	7回/年 (R3)	6回/年 (R4)	6回/年 (R5)	—	3回/年	農林振興課

◎農業所得の向上に向けた取組の推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
朝来市全体の農業収入額	11.6億円 (H30年度)	11.2億円 (R2)	10.5億円 (R3)	10.7億円 (R4)	10.1億円 (R5)	酷暑による農作物の不作、被害等による減少。	13.0億円	農林振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
道の駅農産物販売額	327,839千円 (H30年度)	274,249千円 (R2)	310,815千円 (R3)	292,708千円 (R4)	282,845千円 (R5)	高温障害等の影響による出荷数減少と思われる。	373,736千円	農林振興課 (観光交流課)
学校給食への地元食材供給率	36.0% (H30年度)	38% (R2)	41% (R3)	37% (R4)	35.5% (R5)	米(95.5%)と味噌(90.7%)の供給率は90%を超えているが、野菜の供給率が10%と低い値となっている。 高温障害等の影響による収量減少。	50.0%	農林振興課
有機JAS、GAP、HACCP取得農業者数	2人 (H30年度)	2人 (R2)	2人 (R3)	2人 (R4)	2人 (R5)	有機JAS取得後更新費用が高額のため、みなし有機農業者として留まる傾向がある。	17人	農林振興課

◎生産量拡大や作業負担軽減・低コスト化に向けた新たな農林畜産業の推進

活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
大規模ビニールハウス設置数	40棟 (H30年度)	47棟 (R2)	51棟 (R3)	53棟 (R4)	54棟 (R5)	資材高騰によるハウス設置経費の増額したことによる設置延期と辞退又は他の作物へのシフトチェンジ。	60棟	農林振興課
大学・企業等研究機関と連携した新技術導入研究件数	0件/年 (R1年度)	0件/年 (R2)	1件/年 (R3)	1件/年 (R4)	1件/年 (R5)	—	1件/年	農林振興課

◎森林の利活用の推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
素材生産量（兵庫県林業統計書） （市内山林での立木を伐採し丸太にして販売した生産量）	15,789m ³ /年 (H29県林業統計書)	15,682m ³ /年 (R元県林業統計書)	16,844m ³ /年 (R2県林業統計書)	23,479m ³ /年 (R3県林業統計書)	29,431m ³ /年 (R4県林業統計書)	—	20,000m ³ /年	農林振興課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
林業労働者数（兵庫県林業統計書）	55人 (H29県林業統計書)	52人 (R元県林業統計書)	48人 (R2県林業統計書)	50人 (R3県林業統計書)	51人 (R4県林業統計書)	新規就労者がある一方で、引退・中途での離職者もあり、平衡状態である。	65人	農林振興課
私有林整備面積	40ha/年 (R1年度)	51ha/年 (R2)	57ha/年 (R3)	104ha/年 (R4)	100.4ha/年 (R5)	林業事業体への業務委託により、R1～R3は約50ha/年、R4～R6は約100ha/年を整備している。	120ha/年	農林振興課
未利用材搬出量	5,560t/年 (H30年度)	6,502t/年 (R2)	4,030t/年 (R3)	3,831t/年 (R4)	2,570t/年 (R5)	生野バイオマス発電所休止のため搬入量が減少した。	8,400t/年	農林振興課

基本目標3 誰もが希望を持ち、心豊かに安心して暮らせる「まち」づくり

◆地域コミュニティを基盤とした誰にも居場所と役割のあるまちづくり

◎地域特性を生かした地域の主体的なまちづくりの推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
地域自治協議会の参画人数 〔再掲〕	1,671人 (H30年度)	1,698人 (R2)	1,385人 (R3)	1,332人 (R4)	1,226人 (R5)	コロナ禍において、地域自治協議会活動に参画できる環境を整えることができなかった。	1,870人	市民協働課
自らの知識や経験を地域社会活動に活かしている市民の割合(市民アンケート調査)〔再掲〕	28.7% (R1アンケート調査)	25.8% (R3年5月調査)	25.0% (R4年5月調査)	26.2% (R5年5月調査)	26.2% (R6年5月調査)	コロナ禍において、自らの知識や経験を地域社会活動に活かせる環境を整えることができなかった。	27.8%	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
住民アンケート等地域住民の意見を反映して地域まちづくり計画策定作業(見直し分)をした地域自治協議会数	6協議会 (R1年度)	7協議会 (R2)	9協議会 (R3)	11協議会 (R4)	11協議会 (R5)	—	11協議会	市民協働課
地域の多様な主体・活動をつなぐ対話の場等開催回数	0回/年 (R1年度)	2回/年 (R2)	1回/年 (R3)	2回/年 (R4)	6回/年 (R5)	—	4回/年	市民協働課
地域づくりの学びの場開催回数〔再掲〕	5回/年 (R1年度)	6回/年 (R2)	5回/年 (R3)	6回/年 (R4)	6回/年 (R5)	—	5回/年	市民協働課

◆誰もが安心して楽しく暮らせるまちづくり

◎一人一人が地域とつながりを持ち安心して自分らしく暮らすことができる地域共生社会の実現

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
区の地域活動に参加した市民の割合（市民アンケート調査）〔再掲〕	69.7% (R1アンケート調査)	52.6% (R3年5月調査)	45.1% (R4年5月調査)	53.5% (R5年5月調査)	55.7% (R6年5月調査)	コロナ禍において、地域活動に参加できる環境を整えることができなかった。	66.1%	市民協働課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
あさごいきいき百歳体操実施グループ数	64グループ (H31年3月)	73グループ (R3年3月)	86グループ (R4年3月)	85グループ (R5年3月)	90グループ (R6年3月)	—	83グループ	地域包括支援センター
地域ミニデイ事業登録グループ数	66グループ (H31年3月)	86グループ (R3年3月)	68グループ (R4年3月)	80グループ (R5年3月)	78グループ (R6年3月)	令和2年度以降のコロナ感染対策で、高齢者の集いを控える地域が増えた。令和4年度以降は徐々に回復しているが、目標まで達成できていない。	87グループ	地域包括支援センター
ひきこもり等居場所づくり事業数	0事業 (R1年度)	1事業 (R2)	1事業 (R3)	2事業 (R4)	2事業 (R5)	—	1事業	社会福祉課

◎在住外国人など多様な人が安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
国際交流・国内交流など多様な交流が推進されていると感じる市民の割合（市民アンケート調査）	43.6% (R1アンケート調査)	27.5% (R3年5月調査)	31.4% (R4年5月調査)				45.0%	人権推進課
在住外国人と地域とのつながりづくりが進められていると感じる市民の割合（市民アンケート調査）	19.1% (R4アンケート調査)	—	19.1% (R4年5月調査)	15.5% (R5年5月調査)	15.7% (R6年5月調査)	外国人を雇用する事業所や企業、地域や関連団体との連携や協力、行政の役割などを話し合う機会が不足していると考えられる。	21.1%	人権推進課
国際交流において多様な文化に触れる機会があると感じる市民の割合（市民アンケート調査）	11.6% (R4アンケート調査)	—	11.5% (R4年5月調査)	9.0% (R5年5月調査)	10.9% (R6年5月調査)	これまで行ってきた中学生の海外派遣や受入がコロナにより滞っていた。令和5年度以降、フランスバルビゾンとの交流機会を増やし、また今までの中学生を中心とした国際交流が復活したが、一部の市民にの交流になっていると考えられる。	13.6%	人権推進課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
日本語教室参加者数	32人 (R1年12月)	27人 (R3年3月)	28人 (R4年3月)	25人 (R5年3月)	30人 (R6年3月)	現状の市民ボランティアに依存している日本語教室では、外国人一人ひとりのニーズ（日本語レベル・会場・時間など）の把握と対応が難しい。	42人	人権推進課
日本語教室ボランティアスタッフ数	22人 (R1年12月)	24人 (R3年3月)	22人 (R4年3月)	18人 (R5年3月)	36人 (R6年3月)	—	28人	人権推進課

◎誰もが生きがいを感じ健やかで幸せに暮らすことができる健幸づくりの推進

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
65歳以上の要支援・要介護認定率	21.8% (H31年3月)	21.9% (R3年3月)	22.1% (R4年3月)	22.1% (R5年3月)	22.6% (R6年3月)	軽度認定者が増加し通所介護サービスを利用する傾向があり介護予防施策(いきいき百歳体操、フレイル予防等)の新たな転換期を迎えていると考える。虚弱高齢者が認定を持たずに参加できる工夫、取組が進んでいない。	20.0%以下	高年福祉課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
健幸づくりポイント事業寄附及び交換申請者数	788人/年 (R1年度)	813人/年 (R2年度)	881人/年 (R3年度)	965人/年 (R4年度)	1,028人/年 (R5年度)	(達成見込)	1,090人/年	健幸づくり推進課
小学6年生の肥満傾向の出現率(朝来市養護教諭研究会)	男7.7% 女9.4% (R1年度)	男10.3% 女14.7% (R2)	男11.8% 女10.4% (R3)	男11.7% 女12.1% (R4)	男10.7% 女10.5% (R5)	一部の児童の肥満率が高い。突出して肥満度が高い児童については、睡眠不足や偏った食生活といった基本的な生活習慣が定着していないことが主たる理由と考えられる。肥満傾向にあることから運動が苦となり、運動が不足する。運動不足からさらに肥満が進み、さらに運動しないという悪循環も理由の1つと考えられる。	男5.0% 女5.0%	学校教育課
あさごいきいき百歳体操実施グループ数〔再掲〕	64グループ (H31年3月)	73グループ (R3年3月)	86グループ (R4年3月)	85グループ (R5年3月)	90グループ (R6年3月)	—	83グループ	地域包括支援センター
地域ミニデイ事業登録グループ数〔再掲〕	66グループ (H31年3月)	86グループ (R3年3月)	68グループ (R4年3月)	80グループ (R5年3月)	78グループ (R6年3月)	令和2年度以降のコロナ感染対策で、高齢者の集いを控える地域が増えた。令和4年度以降は徐々に回復しているが、目標まで達成できていない。	87グループ	地域包括支援センター

◆まちづくりや市民の暮らしを支えるための連携の強化

◎地域間連携・政策間連携などによる効果的・効率的な事業の推進

活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
丹波市・福知山市の生活圏域での連携分野数	4分野 (R1年度)	6分野 (R2)	6分野 (R3)	6分野 (R4)	6分野 (R5)	—	6分野	総合政策課
連携協定大学数	3校 (R1年度)	3校 (R2)	4校 (R3)	5校 (R4)	5校 (R5)	—	5校	総合政策課

◎持続可能な地域公共交通による安心した暮らしの実現

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
公共交通利用者数（路線バス・コミュニティバス年間利用者数）	234,246人 (H30年度)	177,677人 (R2)	211,596人 (R3)	211,598人 (R4)	210,035人 (R5)	路線バスの利用者は対前年度で横ばいであるが、コミュニティバス（アコバス）の利用者は年々減少している。	216,000人	都市政策課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
新たな利用促進事業実施件数	0事業 (R1年度)	1事業 (R2)	2事業（累計） (R2～R3)	5事業（累計） (R2～R4)	6事業（累計） (R2～R5)	—	6事業（累計） (R2～R7年度)	都市政策課
新たな交通手段の導入件数	1事業 (R1年度)	0事業 (R2)	0事業 (R3)	1事業 (R4)	1事業 (R5)	—	2事業（累計） (R2～R7年度)	都市政策課

◎市民の多様な活動や暮らしを支えるための公共施設の適正配置

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
公共施設の延べ床面積	240,258㎡ (H28年度)	231,195㎡ (R2)	230,825㎡ (R3)	230,672㎡ (R4)	230,310㎡ (R5)	除去に伴う財政負担が生じること、「廃止・取壊し」の方向性は決定しているが補助金適正化法により取壊年限に達していないかかったり未だ使用できる建物状況であることなどにより、公共施設の総量の縮減が進んでいない。	216,233㎡	総合政策課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
公共施設個別施設計画策定率（対総床面積）	1.3% (H28年度)	100% (R2)	100% (R3)	100% (R4)	100% (R5)	—	100.0%	総合政策課
公共施設の有効活用に向けた対話・周知活動数	1件/年 (H30年度)	4件/年 (R2)	1件/年 (R3)	0件/年 (R4)	0件/年 (R5)	公共施設に関する計画策定からマネジメントの段階へと進んでおり、総括課として、積極的なワークショップ等の開催は難しい。一方で、施設担当課による個別施設に係る利用者等への説明等は行われている。	2件/年	総合政策課

◎生物多様性の保全と持続可能な利用による自然共生社会の実現

成果指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
環境にやさしいまちづくりが進められていると感じている市民の割合(市民アンケート調査)	13.1% (R1アンケート調査)	12.5% (R3年5月調査)	17.6% (R4年5月調査)	15.8% (R5年5月調査)	18.2% (R5年5月調査)	—	14.5%	市民課

成果達成に向けた活動指標	現状値	指標の推移				目標値達成が困難と想定される場合の理由 (目標値達成が見込める場合は記入不要)	目標値(R7)	担当課
		R2	R3	R4	R5			
地域・学校等での環境学習の開催回数	42回/年 (H30年度)	47回/年	46回/年	50回/年	62回/年	—	53回/年	市民課
コウノトリ育む農法等環境保全型農業耕作面積	80ha (H30年度)	60ha (R2)	73ha (R3)	75ha (R4)			161ha	農林振興課
オオサンショウウオを学ぶ出前講座回数	3回/年 (R1年度)	3回/年 (R2)	0回/年 (R3)	15回/年 (R4)	5回/年 (R5)	—	5回/年	文化財課